

科目名 Course Name	家族論 Family Theory				ナンバリング No.	A2-008	
年次	1年	期別	後期	単位数	2	授業形態	講義
担当者氏名	小竹仁美						
連絡先(質問等)	本館2階研究室か、メールで対応。オフィスアワーは担当教員から説明する。						
必修/選択	選択						
関連 DP	DP1 DP2						
授業の概要と 到達目標	<p>社会の変化につれ家族の人間関係や家族のあり方は変容し、家族に関わる様々な問題がもたらされている。この科目では、私たちにとって最も身近なテーマの一つである家族について、人の発達を軸とした家族の発達過程、家族機能の変容、家族関係の病理と介入などを取り上げ、家族や家族を取り巻く現状を理解し、分析する能力の習得を図る。</p> <p>① 家族の発達過程を理解し、説明できるようにする。 ② 家族機能の変化とその関連要因について説明できるようにする。</p> <p>家族関係をめぐる様々な問題と介入について実践的知識を得て、基本的対応行動をとれるようにする。</p>						
授業の方法	講義形式とディスカッションなどの参加型形式。						
学習成果	L01	家族と社会の関係を念頭に、社会問題に関心を持ち考察することができる。					
	L02	家族関係の病理に関する知識をふまえ、家族が抱える現象を分析し、自らにできる行動をとろうとする態度を身につけることができる。					
	L03						
	L04						
課題に対する フィードバック	レポート等は実施後、各自にフィードバックする。						
教科書/ 参考図書	毎回、資料を配布する。参考図書:新聞資料等。						
履修上の留意点 やルール等	●ディスカッション等に積極的に参加すること。●事前・事後学習に費やすべき時間の目安は各回180分とする。						
担当教員の実務 経験	●実務経験(職種:臨床心理士 職歴 26 年、公認心理士 職歴 2 年) 相談・援助の経験や知識を解説の際に活かす。						

成績評価の方法と基準					
評価の領域	評価基準	学習成果の割合			
		L01	L02	L03	L04
授業参加態度	S 評価は、授業に積極的に参加していることである。10%の配点である。	5	5		
レポート/作品	S 評価は、レポートの質(課題の目的を把握し論理的構成で書かれている)と量(紙面の8割以上)が十分であること、提出期限を守ることである。70%の配点である。	35	35		
発表					
小テスト					
試験	論述問題を実施する。S 評価は、テーマの意図を理解し、客観的視点と自分の意見を論理的に書いていることである。20%の配点である。		20		
その他					
合計		40	60		

回数		授業計画
1	授業内容	ガイダンス、家族とは何か、現代の家族をめぐる状況【課題1】
	事前・事後学習	課題レポートに取り組む。
2	授業内容	無戸籍問題【課題2】
	事前・事後学習	課題レポートに取り組む。
3	授業内容	良母幻想【課題3】
	事前・事後学習	課題レポートに取り組む。
4	授業内容	男性の育児【課題4】
	事前・事後学習	課題レポートに取り組む。
5	授業内容	ジェンダー【課題5】
	事前・事後学習	課題レポートに取り組む。
6	授業内容	結婚と出産、離婚、女性と自立【課題6】
	事前・事後学習	課題レポートに取り組む。
7	授業内容	乳幼児をとりまく社会問題【課題7】
	事前・事後学習	課題レポートに取り組む。
8	授業内容	児童虐待問題【課題8】
	事前・事後学習	課題レポートに取り組む。
9	授業内容	特別養子縁組、里親制度【課題9】
	事前・事後学習	課題レポートに取り組む。
10	授業内容	犯罪や災害等の被害者や遺族の支援【課題10】
	事前・事後学習	課題レポートに取り組む。
11	授業内容	少年犯罪【課題11】
	事前・事後学習	課題レポートに取り組む。
12	授業内容	がん患者と家族【課題12】
	事前・事後学習	課題レポートに取り組む。
13	授業内容	若年性認知症と家族【課題13】
	事前・事後学習	課題レポートに取り組む。
14	授業内容	労働をめぐる課題【課題14】
	事前・事後学習	課題レポートに取り組む。
15	授業内容	現代における生き方
	事前・事後学習	全授業回の振り返りをする。